

シンボルマーク決定 社会貢献をアピール スズキ関連3財団

スズキが関連するスズキ財団、スズキ教育文化財団、鈴木道雄記念財団はこのほど、それぞれのシンボルマークを決定した。各財団の特徴や活動内容をアピールするとともに、多くの人に親しみを抱いてもらうよう、広報活動などに活用する。2018年に新たに

機械工業の発展に向けて大学など研究機関を支援するスズキ財団は、同大デザイン学部1年の亀田佳那さんの作品を採用。下部は車輪の形、上部はわかばの芽生えと鳥が羽ばたく様子を表現し、技術者の誕生と成長を祈願している。青少年の健全育成のため、経済的な理由で学業に専念で

鈴木道雄記念財団が公益認定を受け、20年にはスズキ財団が設立40周年、スズキ教育文化財団が設立20周年の節目を迎えるため、シンボルマークの作成を企画した。静岡文化芸術大やスズキ社内から作品を募り、デザインを決定した。



スズキが関連する各財団が決定したシンボルマーク=8日午前、浜松市中区

きない高校生や大学生を支援するスズキ教育文化財団のデザインは、心(ハート)と体、スズキの頭文字の「S」がモチーフ。同学部4年の望月彩佳さんの作品を選出した。

社会福祉の向上やスポーツの振興を目的とする鈴木道雄記念財団は社内から提案されたデザインを使用した。2人が向かい合って握手する姿を、同社創業者の鈴木道雄氏の頭文

「M」をかたどって表現している。同社は「シンボルマークを活用しながら、今後もそれぞれの分野でより一層の社会貢献を行っていく」としている。